

○水稲除草剤は効果的に使いましょう！

近年、水田雑草の取りこぼしが多く見られます。**水稲除草剤を適期に散布**し、確実に雑草を抑え、稲の順調な生育と労力削減の両立を目指しましょう。

【共通のポイント】

- 1 小動物による穴や崩れがないよう丁寧に畦塗りをし、**漏水防止**に努めましょう。
- 2 代かきを丁寧にし、**田面を均一**にしましょう。
- 3 除草剤は風の強い日を避けて散布しましょう。
- 4 水口と水尻をしっかりと止め、水深5cm以上にしてから、除草剤を散布しましょう。
- 5 除草剤の効果を高めるために、**散布後7日間は湛水管理**を行いましょう。また、田面が露出したら、ゆっくりと入水（足し水）しましょう。

※除草剤は種類も多く、散布時期や散布回数、散布方法が異なります。散布の際は必ず【営農のてびき】P.32～39を確認して下さい。

【移植のポイント】

- 1 代かきから田植えまでの日数は3～5日を目安に、**1回目の除草剤は田植え後5～7日頃**（代かきから10日以内、※初期剤には8日以内の剤もある）に散布し、雑草を取りこぼさないようにしましょう（図1）。
- 2 補植は田植え後すみやかに、**除草剤散布後はほ場に入らないように**しましょう。
- 3 **例年、雑草が多いほ場は2回目の除草剤**も散布しましょう。
- 4 2回目の除草剤散布前には、水の入替えと酸素供給のため、2～3日程度の軽い田干しを行いましょう。1回目除草剤散布の15日後頃を目安にサンパンチ1キロ粒剤やテッケン1キロ粒剤等の中期剤を散布しましょう。

5月						
日	月	火	水	木	金	土
4/30 代かき	5/1	2	3 田植え	4	5 補植	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20 軽い田干し
21	22	23	24	25	26	27

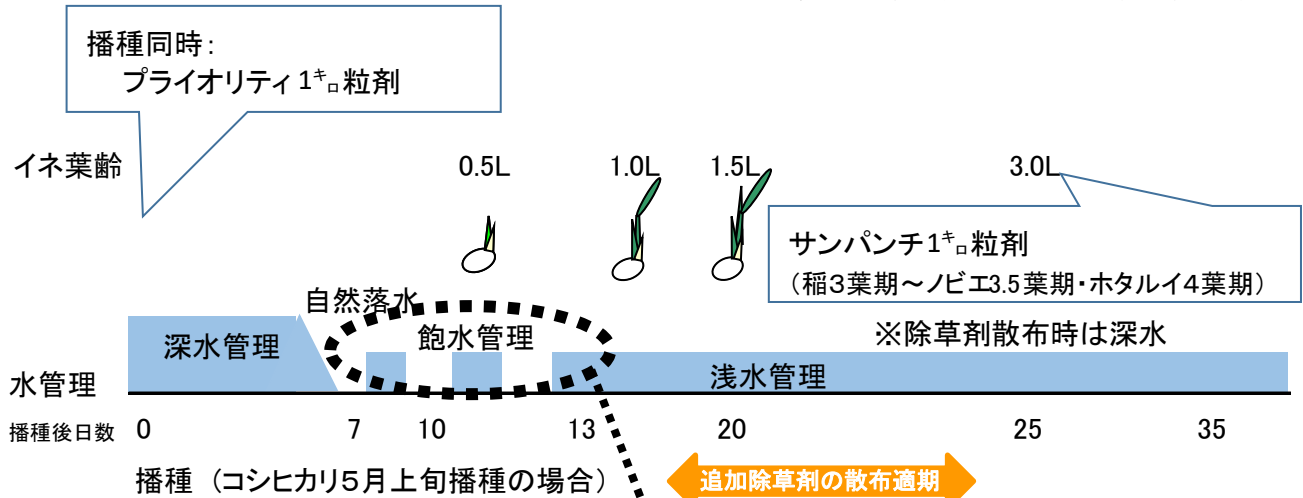
図1 代かきから除草剤散布までのスケジュール例

【直播のポイント】

〔鉄コーティング〕

苗立率を高めるため、播種から8日間以上は湛水しない

雑草の発生状況に応じて、中期・後期剤を散布



干しすぎると除草剤の効果も半減



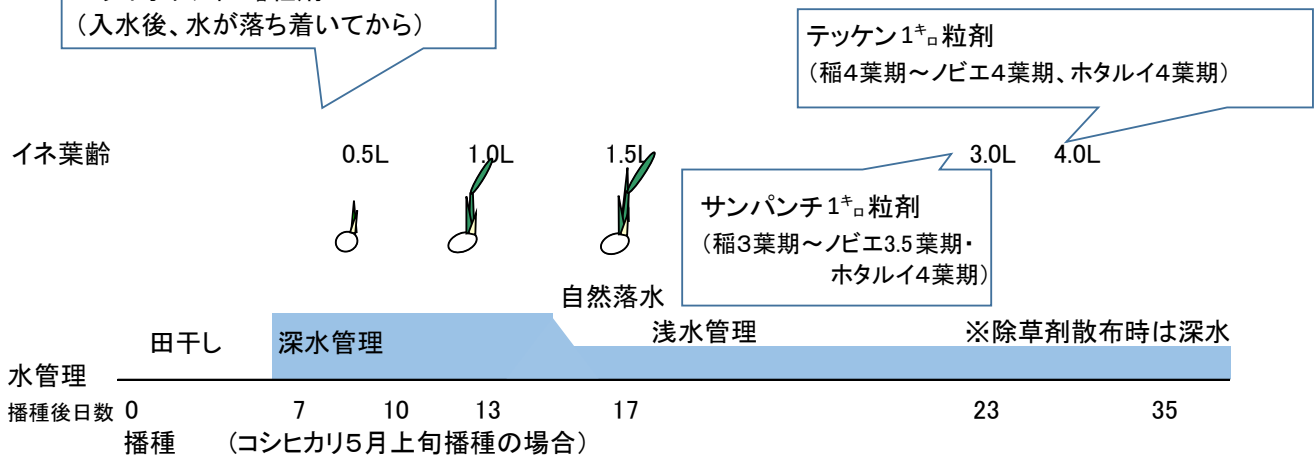
雑草の発生が多い場合は追加散布

- ・クリンチャー1^キ粒剤
(播種後10日～ノビエ3葉期)
- ・アクシズMX1^キ粒剤
(稲1葉期～ノビエ4葉期、ホタルイ4葉期)

〔カルパーコーティング〕

プライオリティ1^キ粒剤
(入水後、水が落ち着いてから)

雑草の発生状況に応じて、中期・後期剤を散布



※お問い合わせは、JA なんと営農部(62-0261)または砺波農林振興センター(32-8147)へ

富山県農薬危害防止運動実施中

～4月13日～9月14日～